

令和元年度第2回京丹後市まちづくり委員会 会議録

- 1 開催日時：令和元年8月26日（月）午後1時30分～午後2時15分
- 2 開催場所：京丹後市役所 205会議室
- 3 出席者：○京丹後市まちづくり委員会委員
中谷真憲委員、大庭哲治委員、川戸一生委員、野々垣里美委員、
奥野美智恵委員、中西脩介委員、吉岡高博委員、土出尉恵委員、
味田佳子委員、小林朝子委員
○新井政策総括監兼市長公室長
○川口地域支援・定住対策監
○森戸理事兼弥栄市民局長
○政策企画課 谷口課長、平補佐、小林主任
- 4 次第
 - (1) 開会
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 会議録確認者の指名
 - (4) 協議事項
「京丹後市のまちづくりに関するアンケート」について
 - (5) その他
 - (6) 閉会

《議事経緯》

総括監： 本日はお忙しいところ、まちづくり委員会にご出席いただきましてありがとうございます。本日の会議は公開とさせて頂いておりますので、よろしくお願い致します。

なお、本日の委員会におきましては、吉岡和信委員、それから越江委員からご欠席の連絡を頂いております。川戸委員につきましては、また遅れて来られると思います。

また、アドバイザーで来て頂いております、新川先生も本日はご欠席の連絡を頂いております。

本日の「京丹後市まちづくり委員会条例第7条第2項」の規定によりまして、委員の過半数の出席がありますので、成立していることをご報告申し上げます。

それでは、開会にあたりまして、中谷会長からご挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願い致します。

会 長： 改めまして中谷です。よろしくお願いします。昨日は久美浜のほうにいったのですが、海を見てすごく感動して、素晴らしい海で、最高の景色でした。

今回はこのまちづくり委員会で、まちづくりの課題に関して、取組に関して、ということで今日は思うことを言っていただければと思います。よろしくお願いします。

総 括 監： ありがとうございます。それではここで、配布資料の確認をさせていただきます。

(配布資料の確認)

それでは条例第7条第3項の規定により、会長が会議の議長となりますので、以後の進行につきましては会長によろしくお願いいたします。

会 長： それではお隣に大庭先生がいらっしゃっていますので、前回のご欠席だったので、一言ご挨拶をいただければと思っております。

委 員： 皆様、初めましての方もいますし、お顔を拝見したことがある方もいらっしゃいますが、すいません第1回目はスケジュールが調整出来ず、参加出来ずに申し訳ございませんでした。本日から出席をさせていただきたいと思います。

昨年度、未来のまちづくりワークショップのほうでコーディネーターを努めさせていただきました。その成果などをこのまちづくり委員会でご披露しながら、今後の京丹後市のまちづくり、将来に向けて、色々と議論させていただきたいと思いますので、どうぞ引き続きよろしくお願いします。

会 長： ありがとうございます。それでは次第に沿って進めさせていただきます。まずは会議録の確認者の指定をいたします。「京丹後市審議会等の会議の公開に関する条例施行規則第5条第2項」の規定により、「会議録の内容について、会長が指定した者の確認を得るもの」とされていますので、私から指名させていただきます。たいへんお手数ですが、野々垣委員と吉岡高博委員、お二方をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは協議事項に入っていきますが、お手元の資料1をご覧ください。前回の委員会で皆様からいただいたご意見をまとめた資料を事務局が用意してくれておりますので、目を通していただいて、今後の委員会の参考にして頂ければと思います。

では次第4「京丹後市のまちづくりに関するアンケートについて」の協議事項に入りたいと思います。事務局から説明をお願いします

す。

事務局： 失礼します。

(資料2説明)

会長： ありがとうございます。なかなか見ていると色々と興味深いアンケートですね。今の説明の中でご意見やご質問があれば、自由にさせていただければと思うのですが、いかがでしょうか。比較していくために、なるべく内容は変えないで、10年程度続けていきたいという趣旨のアンケートです。ちょっと私から質問なのですが、1問目の京丹後市は好きですか という問い、丹後町のあまり好きではないというのが際立っている気がするのですが、前回も同じ質問で一番多いのですよね。何かこれは、たまたまですよね。

事務局： 丹後町におきましては、中学生以上全員アンケートということで、丹後町の区長会として取組をされておられまして、もっともっと細かいデータなのですが、今回のこの中学3年生のアンケートということで、そこの数値が低くなっているのは、我々もどうしてだろうということは思っているのですが、明確にこうだからこういった数値になっているというのが分析できないです。たぶん、教育委員会にちょっと聞くのが、中学3年生のクラスとしても雰囲気として、そういった傾向があったのではないのかなというようなことが言われたりはしていましたが、細かくは分かりません。

会長： クラスは30人程度ですよね。はい。皆様、ご意見というか感想とか何かございますか。

委員： 本当に素晴らしいことがアンケートに綴られていると思うのですが、これをただ集計しただけではなくて、市でどのように生かしていくのかを考えていらっしゃるのかどうか。これで終わってしまうのか、これ実現可能とか、これは取り入れてみようとか、指針にしているのかどうかという所はいかがでしょうか。

事務局： はい。このアンケートがそのままあてはまるのかどうか分からないのですが、平成27年くらいから義務教育の中で小学校3年生から中学校3年生まで、丹後学という授業を、年間で20時間のカリキュラムで丹後学という授業をやっていただいております。副読本も作って、結局今の子ども達は高校を出ると約95%が市外に出てしまいますので、できるだけ丹後のことをわかっていただいて、その上で、将来出て行って就職をされる。また就職され

て何年かしてから、田舎に帰ってこようと思っていただけるような、そんな子ども達を作りたいなということで、歴史や文化のみならず、丹後には色々な仕事があるのだということも含めて、学習の時間を作っていただいております。その子ども達が今高校生になって、高校からは子ども達のふるさとに対する意識が変わってきたよということを経験の先生からお聞きしております、更にはそれを進化させようということで、議会前ですが、高校にそういった事をコーディネートしてくれる人を配置していただくということで、議会に予算をお願いしております。

そういった取組をしている中で、意識調査によりまして、中学校3年生で丹後学の授業をする中では、もしかしたら、もっと好きだという人が増えてくるかもしれないというのが、そういった意識がこれではかれるのかもしれませんが、ずばりではないのですが、そういったあたりで参考にさせていただけるのかなと思っております。

委員： 2点質問させてください。1点目ですが、中学生のアンケートで回答するのですが、このアンケートに答えるための丹後学ですか、授業の中で回答させているのか、あるいは、ただ単にアンケートを書いてくださいということで、回答しているのか。回答のさせ方が非常に大事で、例えばよく交通の分野で、モビリティマネジメントということで、結局コミュニケーションを図りながら、ただ単にアンケートを答えさせるだけではなくて、自分達の地域をより真剣に考えてもらいながら、意見を述べて、その回答をフィードバックして自分達で考えるということをするのですが、それが実際、このアンケートではされているのかどうかということ。2点目は、10年くらい見られるということですが、もしそこに違いがあった場合、それをどうしますか。違い、たぶん何かしら変化が現れてくると思うのですが、良い方向に行けば、そのままでもいいのですが、もし何かマイナス要因があったときに、このアンケートから何をするのか、市が何をするのか、参考は参考でよいのかもしれませんが、できれば、より積極的に使っていただけたほうが、人の情報なので良いかなと思うのですが、この2点よろしいでしょうか。なんせ中学校もバラバラですから。

事務局： 学校にお任せをしております、授業の中でアンケートをしていただいているのかなと思っております、その授業がどんな授業かどうかということをおもっておりますが、それでももちろん市に対するような、こんな町であってほしいという記述式のところもあって、そこはもちろん参考にさせていただいております、すぐに参考に出来ることは中々ないと思うの

ですが、どのように中学3年生が考えているのかということは一定理解できると考えておりました、そういった事を考えながら施策に生かしていくということかなと思っております。もう1点目的は、中学校3年生という年、次に高校に入っていく、中学校3年生の立場で自分のことや周りのことを改めて考えてもらいながら、ある意味アンケートでもって、意識みたいなことも中学3年生が持ってもらえるような、そういった事も意図してもっている部分があります。先ほどの交通のアンケートのとり方までは出来ていないと思いますが、今のところはそういった感じです。それから10年後という部分では、先ほど丹後学ということで、郷土に愛着を持つとか、今までですと、親が仕事がないから帰って来なくても良いよというようなことを子どもに対して言っているような、そんなことも会議の中で色々と言話が出てくるわけですが、そうではなくて、親が良い所だから帰ってこいよというような、子ども達も良い所だから、やはりここに暮らしたいと思ってもらえるように今政策を進めているところでして、そういった意味では経年変化を見ていきたい。それが反対に悪くなると、やり方がどこかおかしいのではないかという、それはまたやり方を改めて考えて直す必要があるのかなと思っております。

委員： はい。ポイントだと、中学3年生の皆がどう答えているのかというのが、かなり自分の今後の将来の京丹後市について影響を受けると思いますので、是非フィードバックというのも大事だと思います。皆で議論する時間とか、そういった事を持っていたければ、よりまちづくりのあり方を考えるのではないかなと。ただ単にアンケートを答えて、市の方が把握するだけではなくて、是非中学校3年生本人が、自分の地域をより深く考えていただくために、合わせてしていただくことが良いかなと思いました。

事務局： 少し補足をさせていただきますと、まちづくりアンケートに関するスケジュールをお手元に配らせていただいていると思います。こちらをご覧くださいまして、本日の委員会でアンケートの実施を認めていただきますと、9月17日に中学校長会がありますので、そちらでアンケートの実施について、校長先生を通じてお願いをするという格好で、11月1日から29日の間に各学校でアンケートを取っていただくということです。このあたりは受験を控えている中学3年生ということもありますので、フィードバックという所までが、なかなか正直できていないのが現状としてはあります。3年生にしっかりアンケートをしてもらおうということで、今日お願いをして、11月中にアンケートを実施し、12月以降にアンケートを回収後、結果については、年度末までに集計を行い、まちづくり委員会委員の皆様、それから各中学校にもこういった結果でしたということで、お

渡しをさせてもらいますので、学校によっては、もし時間を取っていただければ、それが同じ3年生なのか下級生になるのかわかりませんが、そのように使ってもらうことは可能かなと思っております。

- 会 長： 他に何かどうでしょうか。ご質問やご意見などお願いします。
- 委 員： 質問でも意見でもないのですが、このアンケートの目的が郷土愛を育むということなのですが、このアンケートでどのような郷土愛が育まれるのかなと思ったのと、中学3年生の時点で、このまま住み続けたいという聞き方が、このままずっと高校まではありますが、その後も引き続きというふうに感じたのであれば、私自身もそうですが、一刻も早くここを出て行きたいと思って、高校を卒業して出て行きましたし、それでもやはり出てから、後で効いてくるというか、そういった事が故郷だと思うので、それで帰ってきた、小さいときから必ずここに住むぞと思った人がここに居るわけではないなと思うので、そのあたりがどういう聞き方なのか、どういった郷土愛の育み方を丹後学でされているのか分からないのですが、ずっと居てね、みたいな事ではなくて、飛び出していただいて、外に出てから振り返ったときに、やっぱり丹後のために帰りたいなと思うような、そんな子どもになってほしいなと思いましたので、住み続けたいっていうのがどのように伝わっているのかなと思いました。

- 会 長： 事務局いかがですか。
- 事 務 局： はい。設問の作り方も一つあると思いますが、今おっしゃっていただきましたように、住み続けたいというのは、基本的には我々もずっと住んでいただきたいのですが、結局先ほどありましたように、大学がありませんので、高校を卒業すると同時に、先ほど95%が出て行くといいましたが、そのうち、進学へは86%くらいです。あと9%は就職で出て行かれる。残りの5%は地元で就職するという結果が出ているようです。そういった意味で、まずは住み続けたいのだけでも、やはりやむなく、外に出て行かないといけないというのが地域の実情かなと思っておりますし、それは個人の思いようで、例えばそんなところに行かなくても、ずっと住み続けたいという方もおられると思うのですが、設問的には、こういった聞き方をしている。おっしゃっていただきましたように、ずっとふるさとのことを思っていて、将来、こちらに出来たら帰ってきていただきたいということで、ちなみに、だいたい25歳から30歳くらいまでに、95%出て行かれた方のおよそ46%とか47%とかまでは回復しているようです。そのままずっと60歳くらいまでなり、あとは自然に減っていくと

というのが今のそれが京丹後市の流れですので、我々はそれを少しでも帰ってくるパーセンテージを上げていきたいというのが、今の取組ということでございます。

会長： ちょっと今お聞きしております、その点に関して、私からも質問があるのですが、これはクロス分析はされないのですか、1問ずつ単純なアンケート結果が出ておりますが、好きだけど住み続けたいとか、好きだけど住み続けたくないとか、そういった2項目以上分析して、自由記述の部分も多いので、やりにくい部分もあるのでしょうか。

事務局： すいません。クロスチェックなのですが、昨年度の委員会の時に、29年度のクロスチェックしたものを outs させていただきました。すいません。今年度は、まだ30年度も含めて、2カ年の比較だけしか作れていないのですが、クロスチェックはちょっとまだ出来ておりませんので、また出来ましたら見ていただければと思います。

会長： これを生かしていこうと考えたときに、なぜこうなっているのかを分析していこうと思うと、やはり何でもいいのですが、問5を見た時に、大人になった時に、京丹後市でしたいと思う仕事があるのかというのが自由記述だと分からないことはないもので、必ず回答が出るわけですよ。この層で言うと、例えば京丹後市が好きだと思うとか、住み続けたいと思っているのかとか、そこまで見えてくると、アンケートの使い方がもっと色々出てくると思います。それからこの住み続けたいかどうかに関しては、これ私は一番衝撃を受けた項目だったのですが、問2の住み続けたくない割合が4%高いというのが、こんなものなのかもしれません、普通に考えると、住み続けたいと思う方が上にくるようなまちにしたいなと考えてもらうのが当然だろうなと思いますし、ある種の政策的な目標としてこのアンケートを使っているとすれば、いつかこれが活用できるよ、そんなためにはどんな考え方とか考えておけばいいのかなと思います。すいません。私が話してしまいましたが、どうですか、皆様、色々な感想とかご意見とかあると思いますが、他に何かございますか。

委員： 会長の話と関連するのですが、クロスとか組み合わせてとか、例えば女子中学生と男子中学生とでは考え方が、将来の京丹後市の見方が違うのかも気になります。もし分析されておられるのなら、そこに違いがあれば、結果に応じた何か見え方もある

かもしれません。

委員： すいません。ちょっとまだ意見がまとまっていなくて、的を得ない言い方になってしまうかもしれないのですが、先程も指摘されていたように、このアンケートを中学3年生の時に取るまでに、この子ども達は、どれだけの学びを得ている状態でこれに答えているのかなというのが疑問で、私も移住して来て、移住支援の仕事をしていて、このまちは良いけど仕事がないとか、魅力的ではないということをする大人を減らすのが、大事だということをやっと思っていたし、それは今カリキュラムに入れてもらって続けて行ってほしいなと思うところなのですが、それでこのまちに愛着を持った次の段階について、どれくらい取り組まれているのかなと思っていて、問5の仕事についてですが、京丹後市でいたいと思う仕事や挑戦ということに関して、私も中学3年生の時に具体的な仕事があったかなと思ったのですが、テレビで見た仕事とかに関して、やはり自分が知っている仕事に関してしか思い浮かぶことが出来なくて、具体的に書かれている人も全部京丹後市にある仕事というか、その仕事についている人を見たから、これを書かれているのだろうと思ったのです。今インターネットがあって、仕事の幅も広がってきたし、ここでやれる仕事の幅も広がってきて、正職じゃなくても、副業、仕事を組み合わせて、働いていることの事例だったり、先生達ってどれくらい子ども達に伝えることが出来るのかなと思っていて、この前、中学生ではなくて、峰山小学校の6年生の担任の方に色々な働き方があるということをお話してほしいということで、個人的に依頼が来て、お話しに行く予定ではあるのですが、各学年の先生達が独自に授業としてやらないといけない事もあるのですが、一人一人手配して、1クラスのためだけにやるという労力も大変だなと思った時に、こういった色々な職業の選択があるということだったり、あとは公民館や自治体でこうあったらいいなと思う、どう思いますかということも、実際にもしそんなに取り組んでいない子どもに質問したのであれば、答えようが全然ないのかなと思っていて、それまでの間に学校だったり地域で子ども達にどのように取り組んでもらおうかということをやっていない状態で聞いているのなら、今後もそんなに展開がないのかなと感じました。それで、こういうのが出来たらいいなということで、当たり前ですが、USJとか、ラウンドワン、イケアみたいな、書かれているのですが、そんなの

書いても、出来るわけではないので、公民館でどのように活用して娯楽は自分達で生み出していくことができるのかというのを先生、各学校の先生達だけではなくて、未来ラボみたいにそこに参加したら、参加させることで、先生の教育の負担が減らせるけど、学びの場所があるということが、これから増えて行かないと、先生は大変だし、人口は減っているのに、各学校で同じ授業をしないといけない。学校によって知れることに差があるということになっていきそうだなということを、このアンケートの結果を見て思いました。全部教えなくても良いと思いますが、今は調べ方さえ知っていれば、色々なことを知ることが出来るので、そういった学びが中学3年生までにあって、また今後アンケートに反映されていけばいいなとまとまりもなく思いました。

会長： ありがとうございます。どうでしょうか。ある意味、これだけ色々出てきているのが、実はこのアンケート自体はすごく良いなと思いますけどね。これを続けていって変化を見て、それでちゃんと政策にどのように、うまく活用していくのか、その他考えないといけない問題はありますが、まずは今審議しないといけないこととして言えば、このアンケートを続けるのかどうかがあるのですが、どうでしょうか。今の意見の活発から見ても、十分にこれは続けていくべきことだという気がしましたが、皆様の意見、続けていくということについて異議ある方、よろしいですか。そしたら一応、挙手をお願いしましょうか。今年度についても、アンケートを同様に実施はしていくということに関して賛成という方は挙手をお願いします。

ありがとうございます。続けることに関しては今様々なご意見が出ましたが、実施するということになりましたので、お願いします。それでは、前回の意見のまとめも含めて、全体通して、何かご質問等ありますでしょうか。それではアンケートについては続けることになったということで、進行を事務局にお返しします。

総括監： ありがとうございます。それでは、今のアンケートにつきましては、今いただきました今日のご意見は、出来るだけできる部分については、反映もさせていきながら、進めたいと思いますし、出来るだけ早くクロス集計も含めて、整理させていただきたいと思っております。

それでは次回の委員会の日程について、事務局からご説明をさせていただきます。

事務局： 失礼します。次第にも書かせていただいているのですが、次回の委員会の日程が9月30日（月）13時30分からお世話になりたいと思っております。よろしくお願い致します。内容については、今予定をさせていただいているものと、一つは先ほど大庭委員からご紹介もありましたように、昨年度ワークショップをしまして、新しく高速道路も延伸されてくるという中で、昨年度市のまちづくりに関するワークショップということで都市の拠点であるとか地域拠点であるとかワークショップを開かせていただきました。その内容について、説明をいただいて、議論を進める題材にさせていただきたいということが一つと、もう1点が市の方で、新しい地域コミュニティづくりということで、各地域の区長様にお話もさせていただいております。そのあたりの内容も少し説明させていただきながら、今市が取り組んでいること、それから最近の高速道路が延伸されてということが大きなことですが、そういった事があるということを説明させていただきながら、そういった全体の動きの中で、条例の改正を見ていただこうかなと、まちづくり関連のところで見ただけであればと思いますので、そういったお話をさせていただいて議論をしていこうと思っておりますので、よろしくお願い致します。

総括監： 特にご質問等ありませんでしょうか。それでは、短くて大変申し訳ないのですが、第2回京丹後市まちづくり委員会を終了させて頂きたいと思えます。